

中学校第1学年 保健体育科学習指導案

1 単元名・教材名 「球技」(ゴール型・バスケットボール)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

球技はゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

バスケットボールは、パスやドリブルなどのボール操作で相手コートに侵入し、空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防で勝敗を競い合うことに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。また、相対する2チームが入り乱れるので、敵と味方の動きを把握し、それに対応した判断力や持久力等が求められる。

(2) 生徒から見た特性

バスケットボールの楽しさや喜びを感じる要因	バスケットボールを遠ざける要因
ゴールを決めた。 パス回しが上手くできた。 仲間と協力し、互いに応援している。 強い相手に勝てた。	上手にボール操作ができない。 怪我が怖い。 疲れる。 動き方が分からない。

3 生徒の実態

(1) 技能

バスケットボール部に所属している生徒と小学校のミニバスを含めると、経験者は5名いる。また、小学校では攻撃側が有利となるような簡易ゲームを経験してきた生徒が多く、今回、初めて6号球や正式なリングの高さでバスケットボールを行う生徒が多い。

(2) 態度

素直で真面目な生徒が多く、言われたことを一生懸命やろうとする姿勢が見られる。その一方でボールを扱うことに慣れていない生徒が多く、練習やゲームになかなか積極的になれない生徒もいる。

(3) 知識、思考・判断

トラベリングやダブルドリブル等、基本的なルールに関する知識は小学校で習得している生徒が多い。一方で、ボール操作と空間に走り込む動きといった基本的な技能に関する知識や動き方が分からない生徒もいる。

(4) 体育に関する意識調査より

体育は好きですか。

はい	23人	いいえ	7人
----	-----	-----	----

バスケットボールは好きですか。

はい	11人	いいえ	19人
----	-----	-----	-----

バスケットボールは得意ですか。

はい	5人	いいえ	25人
----	----	-----	-----

バスケットボールが「楽しい」と感じるのはどんな時ですか。	・シュートが入る ・相手に勝つ ・パスが回る	・仲間と協力してできる ・チームに貢献できる
バスケットボールが「苦手」と感じるのはどんな時ですか。	・怪我が怖い ・ミスをする ・どこに動けばよいか分からない	・体力がない ・パスが回らない

体育に対する関心の高い生徒が多いものの、バスケットボールに対して苦手意識を抱いている生徒が多い。

4 教師の指導観

「空間に走り込んで、ゴール前でシュートを決める」というバスケットボールの楽しさに気付かせたい。しかし、生徒のアンケートを見てみると、「どこに動けばよいか分からない」という意見が多くあった。このことから、走り込むための空間を見付ける力を生徒に養いたい。そのため、ICT機器等も活用しながら、コート全体を捉えて空間を意識する力を高めていく。

また、仲間と協力することや認められることに喜びを感じ、バスケットボールが楽しい運動であると感じている生徒も多くいるため、互いに教え合う活動場면을意図的に設定し、仲間と関わる時間を増やしていく。その中で、人権尊重の視点から相手が嬉しくなるような言葉掛けが増えるよう工夫し、自己肯定感も高められるようにしていきたい。

(1) 技能

個人の技能に差がある面も見られるため、授業の前半部分では基礎基本の習得に努めていきたい。バスケットボールの魅力の一つにシュートを決めることが挙げられるので、部分練習も取り入れながら丁寧に指導していく。また、バスケットボールを苦手と感じる要因の一つに「怪我が怖い」ということがあるので、怪我をしないための身体の使い方についても指導していく。

(2) 態度

相手の立場に立った声掛けをして、良好な人間関係が築けるようポジティブワードを使うことを意識させる。また自身のレベルに合った課題を与えることで意欲を高めていく。

(3) 知識、思考・判断

一人一人に分担した役割を持たせて考えるポイントを明確にし、学び合う活動を通して仲間と交流する時間を増やせるようにする。また、ICT機器等を使って話合いがしやすいような環境を整える。

5 人権教育上のねらい(普遍的な人権課題「コミュニケーション能力」)

他者の立場や思いに興味・関心を寄せ、意見や気持ちを適切かつ豊かに伝え合い、仲間同士として共通の目的を目指して努力しようとする態度を養う。

6 人権教育上の視点

(1) 誰とでも分け隔てなく課題を考えたり教え合ったりするなど、協力して解決に向け努力しようとする態度を育てる。(価値・態度)

(2) 自らの考えや気持ちを伝え合い、分かり合うためのコミュニケーション能力を高める。
(技能)

7 単元の目標

(1) 積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを心掛け、分担した役割を果たしながら、作戦などの話合いに参加し、健康・安全に気を配ることができるようにする。

(関心・意欲・態度)

(2) ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けられるようにする。

(思考・判断)

(3) パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に走り込む動きを身に付けられるようにする。

(技能)

(4) バスケットボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解できるようにする。

(知識・理解)

8 単元及び学習活動に即した評価規準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての知識
単元 の評価規準	バスケットボールの楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアプレイに努めようとする、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康、安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	バスケットボールを豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	バスケットボールの特性に応じて、ゲームを展開するための基本的な技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。
学習活動に 即した評価規準	学習に積極的に取り組もうとしている。フェアプレイに努めようとしている。健康・安全に留意している。作戦などについての話し合いに参加しようとしている。	仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。ボール操作やボールを持たない時の動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。	ドリブルやパスを用いて、ゴール前での攻防を展開することができる。空間を見付け、走り込むなどの動きができる。	バスケットボールを行うことで関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。バスケットボールに用いられる技術やその具体的な行い方の具体例を挙げている。試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

9 単元の計画

(1) 領域の取り上げ方

学年 / 運動	バスケットボール	バレーボール	サッカー	ソフトボール
第1学年	10 時間	8 時間	8 時間	10 時間
第2学年	8 時間	10 時間	10 時間	8 時間
第3学年	14 時間	14 時間	14 時間	14 時間

・第3学年においては「バスケットボール」「サッカー」から選択。

「バレーボール」「ソフトボール」から選択。

(2) 運動種目

学年	教材	目指す動き
1	バスケットボール	ドリブル・パス・シュートの基本的な技能を身に付けることを重視し、空間を見付けて走り込む動きの習得を目指す。
2	バスケットボール	基本的なボール操作と仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにし、よりバスケットボールの特性に触れた動きの習得を目指す。
3	バスケットボール	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入から、ゲームが展開できるようにする。

9 単元の計画

(3) 指導と評価の計画(10時間扱い) 本時6/10

	1	2	3	4	5	6 本時	7	8	9	10
ねらい	バスケットボールの学習の見通しを持つ。	ボールの扱いに慣れよう。	ゲームで使える技能を習得しよう。	基本的な技能のポイントを押さえ、習得しよう。	空間を見つけ、走り込もう。	仲間と協力する場面で、役割に応じた協力の仕方を考えよう。	空間に走り込み、ゴール前での攻防を展開できるようにしよう。	自己の課題に応じた練習方法を選択し、技能の向上を図ろう。	ルールを工夫し、高まった技能を使ってミニゲームをしてみよう。	高まった技能を使って作戦を立て、ゲームを楽しもう。
指導内容	・特性や約束事 ・感覚づくり運動の説明	・学習の仕方 ・ハンドリング、ドリブルの行い方	・基本的な技能の復習 ・基本的なシュートの行い方	・シュート、パスの習得	・レイアップシュートの教え合い ・実践の中で空間を見つける動き	・レイアップシュートの教え合い ・ボールを持たない時の動き	・レイアップシュートの教え合い ・ボールを持たない時の動き	・自己の課題の明確化	・チームの課題の明確化 ・3対3のミニゲーム	・3対3のミニゲーム
学習過程	1 特性や約束事の確認 安全な学習の仕方について理解する 2 学習の準備 グループ編成や役割分担の決定 学習カードや資料の活用方法を知る 感覚づくり運動のやり方の確認 3 学習の振り返り	0 用具の準備 1 集合・挨拶・健康観察 2 準備運動・集団走 3 本時の課題の確認 4 感覚づくり運動								
		5 ハンドリング 頭、腰、足回り 8の字 6 ドリブル 右手、左手、両手交互	5 ハンドリング、 ドリブル、パス、 シュート ポイントの復習 上手な生徒による模範 6 基本的なシュート セットシュート レイアップシュート	5 基本的なシュート セットシュート レイアップシュート 6 対面パス チェストパス バウンズパス 2メン (走りながらパス)	5 教え合い活動 セットシュート レイアップシュート 6 2対1 空間を見つけ、走り込む	5 教え合い活動 シュートフォームチェック 6 空間に走り込む動きの習得 3種類の動きのパターンを覚える	5 教え合い活動 シュートフォームチェック 6 3対2 空間に走り込む意識を強める 習得した動きを3対2の実践に生かす	5 課題解決練習 ドリブルメニュー パスメニュー セットシュートメニュー レイアップシュートメニュー 6 3対3 ゴール前での攻防を展開	5 課題解決練習 2対1 3対2 3対3のミニゲーム 簡易的な審判法 空間にいる人にパスをさばく	5 3対3 高まった技能を使ってゴール前での攻防を展開する 6 3対3のミニゲーム 作戦会議を行う
		7 片付け 8 集合・整理運動・健康観察 9 学習の振り返りとまとめ 10 次時の予告 11 挨拶								
評価計画	関									
	思									
	技									
	知									
方	カード	観察	観察	観察・カード	観察	観察 カード	観察 カード	観察	観察 カード	観察 カード
場	1 2	5 6	5 6	5 6	5 6	5 6	5 6	6	6	6

10 本時の学習と指導 (6 / 10 時)

(1) 本時のねらい 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。
(思考・判断)

(2) 準備 バasketボール、タイマー、ゼッケン、タブレット、ホワイトボード、
学習カード

(3) 展開 人権教育上の配慮

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 指導 評価規準 アクティブ・ラーニングの視点																
導入 10分	<p>1 集合・整列・挨拶・健康観察を行う。 2 準備運動を行う。 (1) 準備体操・ストレッチ (2) 集団走 (各クラス 2 列で 2 周走る) 3 本時のねらいと学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">仲間と協力する場面で、役割に応じた協力の仕方を考えよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ねらいについての具体的な動き レイアップを上手に打つためには？ ・正しいステップの位置 ・ボールを当てる場所 (ボード) 点を決めるためには？ ・空いている所に動く。</p> </div>	<p>大きな声で挨拶をさせる。(T 1) 体調不良、見学者の確認をする。(T 1) 集団走では互いに合わせ、相手のことを考えようとする態度を養う。 本時の流れ、ねらいを理解させる。(T 1)</p> <p>各自のアドバイスポイントを明確にさせるために、役割を分担しどのような視点でアドバイスをすれば良いか考えさせる。</p> <p>班長を中心に素早く移動させ、速やかに練習を開始させる。(T 1 ・ T 2)</p>																
展開 32分	<p>4 感覚づくりの運動を行う。 (1) ボール柔軟 (2) ボール腹筋 (3) 2 人組パス</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>レベル 3</th> <th>レベル 2</th> <th>レベル 1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) ボール柔軟</td> <td>3 周以上</td> <td>2 周</td> <td>1 周</td> </tr> <tr> <td>(2) ボール腹筋</td> <td>寝た状態から起き上がる。左右にボールを動かす。8 回以上。</td> <td>寝た状態から起き上がる。左右にボールを動かす。7 回以下。</td> <td>最初から起きた状態。左右にボールを動かす。</td> </tr> <tr> <td>(3) 2 人組パス</td> <td>30 回以上</td> <td>20 回以上</td> <td>10 回以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 レイアップチェックを行う。</p> <div style="text-align: center;"> </div>		レベル 3	レベル 2	レベル 1	(1) ボール柔軟	3 周以上	2 周	1 周	(2) ボール腹筋	寝た状態から起き上がる。左右にボールを動かす。8 回以上。	寝た状態から起き上がる。左右にボールを動かす。7 回以下。	最初から起きた状態。左右にボールを動かす。	(3) 2 人組パス	30 回以上	20 回以上	10 回以上	<p>個人の実態に合わせて感覚づくりの運動の強度を変えさせる。</p> <p>ペア活動を取り入れることによって仲間と関わる機会を増やし、仲間の成長を共に喜び合えるような関係を築けるようにする。</p> <p>1 人につき 1 分間で順にローテーションさせる。</p> <p>与えられた役割の箇所を見て、気付いたところを相手に伝える。</p> <p>ポジティブワードを使うよう促す。 (: ~ できるといいね × : ~ では駄目だよ) 「お願いします」「ありがとうございました」の挨拶をすることで互いに気持ちよく授業を行えるようにする。</p>
	レベル 3	レベル 2	レベル 1															
(1) ボール柔軟	3 周以上	2 周	1 周															
(2) ボール腹筋	寝た状態から起き上がる。左右にボールを動かす。8 回以上。	寝た状態から起き上がる。左右にボールを動かす。7 回以下。	最初から起きた状態。左右にボールを動かす。															
(3) 2 人組パス	30 回以上	20 回以上	10 回以上															

具体的なアドバイスの例

- 足 マークの所でステップを踏もう。
- 手 指先をゴールに向けよう。
- ボード 四角の隅にボールを当てよう。

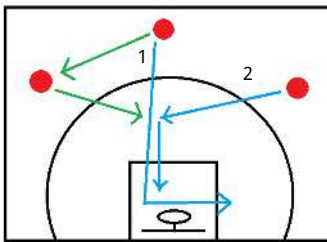
分担した役割を与えることで、努力を要すると判断される状況（C）の生徒も発言しやすくする。

相手の立場に立った言動を尊重しようとする態度を育てるために、仲間に言われて嬉しかった言葉を掲示して目に見える形にする。（価値・態度）

仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。

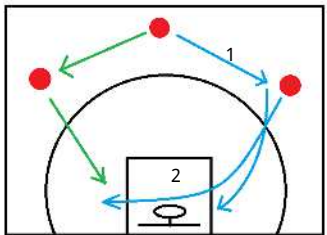
6 空間を見付ける動きの練習を行う。

1

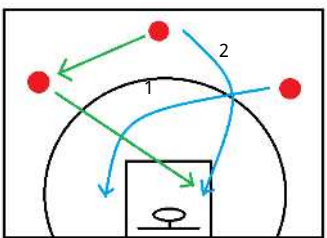


- ... オフェンス
- ... 人の動き
- ... ボールの動き

2



3



相手の立場に立ったコミュニケーションを図るため、リフレーミング法を取り入れる。（技能）

自分が学んだことを、チームのメンバーに分かりやすく伝える。
 教え合い活動の中でつまずきのある生徒に声を掛け、スムーズに進むようにする。（T1・T2）
 話し合い活動ではポジティブワードを多用し、相手の立場に立った発言を増やす。
 よいプレイが出た時は互いに賞賛する声を掛けさせ、自己肯定感を育む。
 レイアップチェックで教わったことを生かしてシュートまで繋げられるようにする。

努力を要すると判断される状況（C）の生徒への指導の手立て

教師が個別に声掛けし、指導にあたる。

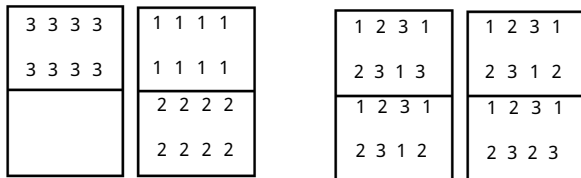
映像を見ながら、どこに空間があるか一緒に見付ける。

十分満足できると判断される状況（A）の生徒への指導の手立て

空間に動くよう仲間に指示を出させる。

「空いている右側に動こう。」

- (1) グループの中から [1] [2] [3] のチームに分担して分かれる。
- (2) それぞれのチームでタブレットの模範映像を確認しながら分担したチームの動きを覚え、練習する。（3分程度）
- (3) それぞれのグループに戻り、学んだ動きを伝達する。（[1]のグループから順に3分ずつ）



<p style="text-align: center;">整理 8分</p>	<p>7 片付けを行う。</p> <p>8 整理運動を行う。</p> <p>9 学習の振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時の授業で気がついたところ</p> <p>『具体的なアドバイスで、仲間の技能は向上しましたか？』</p> <p>次時の課題はなんですか？</p> <p>『次時はどんなことを努力したいですか？』</p> </div> <p>10 次時の予告を行う。</p> <p>11 挨拶を行う。</p>	<p>全員で協力して行わせる。(T 1 ・ T 2) 人任せにせず、仲間と協力して取り組む態度を養う。 怪我の有無を確認し、十分にストレッチをさせる。(T 1) 本時のねらいの達成度 (ポジティブワードが使えたか、役割分担を果たせたか) を振り返らせ、数名の生徒に発表させる。(T 1) 他者の意見に耳を傾け、拍手をすることで意見を認める雰囲気醸成する。 ボールをもらわなかった人の動き方の必要性を問い、この動きが空間に走り込む動きにつながることを理解させる。(T 1)</p> <p>次時の予告をし、見通しを持たせる。(T 1) 大きな声で元気よく挨拶をさせる。(T 1)</p>
--	--	---